

Japaneseman In NY (ニューヨーク生活)

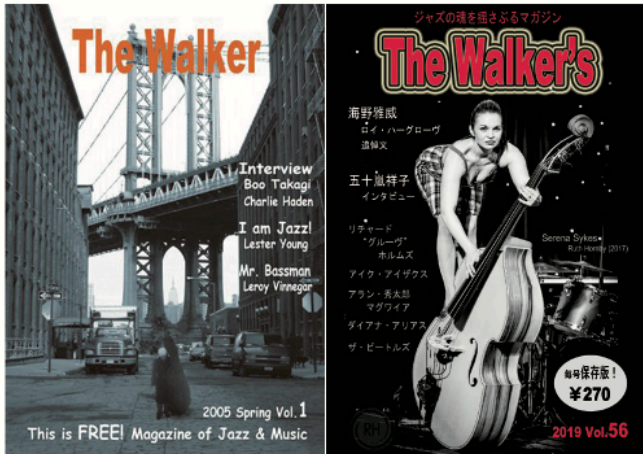


Photo : The Walker's Vol.1 & Vol.56

《 Bridge 》

ニューヨークには有名で美しい橋が幾つかある。特にニューヨークの都心部マンハッタンは川の中州となっているため、ブルックリンやクイーンズ、ブロンクス、スタテンアイランドとの間は橋で繋がっている。一番有名なのはブルックリン・ブリッジかもしれないが、ジョージワシントン・ブリッジ、ウィリアムズバーグ・ブリッジも美しい。個人的には、映画「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ」のジャケットに使用され、本誌創刊号の表紙にも登場しているマンハッタン・ブリッジが一番好きな橋だ。

ニューヨークの橋 (Bridge) について少し触れたが、今回はこの場を借りて、本誌が創刊時からお世話になっている Bridge さんについて書かせてもらいたい。Bridge さんとは、東京・新宿で音楽雑誌広告代理店業、ホームページ制作、プラスチックカード製作、オリジナルギターピック製作等を行っているブリッジコーポレーション株式会社のこと。

Bridge さんの Mission は、メンバーの仕事を通して平和へ貢献すること = “Peace & Love”。そして、Bridge さんの Vision は、ご縁をいただいたお客様一人一人が描いている夢を現実のカチにしていくサポート = “夢と現実の架け橋”。

そんな Bridge さんに唐突に連絡を取り、オフィスに伺ったのは 2004 年の秋だった。計画性等なく、雑誌編集経験もゼロ、漠然と「ジャズと音楽の雑誌を作りたいんです！」という情熱と共に、手書きのラフ過ぎる雑誌のイメージをまとめてホッチキスで束ねた即席版の雑誌を手に飛び込んで行った。「危ない奴が来た！」と思われて門前払いされても不思議ではなかったが、代表の菅原さん、菅原さんと共に Bridge さんを立ち上げた小林さんとのご縁はその時から始まった。

ジャズと音楽の雑誌への思いを熱く語った記憶と共に、代表の菅原さんと大好きなビートルズの話、そして、東京・福生を通じてのご縁で盛り上がった。肝心の雑誌に関しては、当然ながら広告代理店として実物の雑誌がないと何もできないことを説明頂いた。それならということで、後先考えずに情熱と魂の赴くままに創刊号の発行作業に取り掛かった。

2005 年 4 月、そんな経緯で本誌 The Walker's は誕生した。それから丸 14 年、今号で Vol.56 を迎えたが、Bridge さんには創刊時、いや、創刊前からお世話になりっぱなしで、Bridge さんの“夢と現実の架け橋”を渡らせてもらって来た。

Bridge さんも菅原さんの息子さんである綾人さんが新しくメンバーに加わり、“Peace & Love”の Mission と共に新たな“夢と現実の架け橋”を築いて行く。そして、本誌も“ジャズの魂を揺さぶるマガジン”として、今後も変わらぬジャズと音楽への情熱と共に突き進んでいきます。

この場を借りて、私のニューヨーク生活から続く夢への架け橋となって頂いたブリッジコーポレーションさんとのご縁に感謝致します。我がブリッジコーポレーションと The Walker's は永久に不滅です！【<https://bridge-co.com/>】